

# 令和6年度高齢者生きがいづくり・生活支援活動人材育成等事業 生活支援コーディネータースキルアップ研修専門研修実施報告（HP版）

高齢者の生活支援・介護予防サービスの体制整備に関わる生活支援コーディネーターや市町村職員の中堅者を対象に、体制整備における様々な課題に対して、現場主導で素早く修正を重ねて課題を改善もしくは解決していく力をつける研修会を7月から2月に開催！

- 第1回 7月23日9時半～15時 「戦略的かつ目標達成を加速するプロセスを学ぶ」
- 第2回 8月21日9時半～16時半 「協議体形成とその運営を学び進むべき道のりを描く」
- 第3回 9月18日9時半～16時半 「「ごちゃまぜ」で地域づくりにチャレンジ」
- 第4回 10月17日9時半～16時半 「ニーズと地域資源のマッチング手法を学ぶ」
- 第5回 11月15日9時半～16時半 「生活支援活動ボランティアの育成を学ぶ」
- 第6回 12月18日9時半～16時半 「移動支援の仕組みや手法を学ぶ」
- 成果報告会 2月19日13時～16時 「私たちは進むべき道のりをどう描き進んだか」

※オンライン開催（第2回のみ遊学館での集合研修）、講義は10日間の録画視聴も可能。

※参加者：3市町村（9名）+聴講21名※欠席者は後日の録画受講 ほか成果報告会追加20名

※講師：服部真治氏（(株)日本能率協会総合研究所福祉・医療・労働政策研究部主幹研究員）

高橋由和氏（NPO法人きらりよしじまネットワーク事務局長）

中村一朗氏（(一財)医療経済研究・社会保険福祉協会医療経済研究機構政策推進部副部长）

中村美那子氏（ // 政策推進部専門職員）

伊藤みどり氏（ // 政策推進部専門職員）

\*\*\*\*\* 参加者VOICE \*\*\*\*\*

- ・ロジックモデルを作成することで、不十分な部分を把握するヒントになることを学んだ。
- ・目指す姿、現状、真因、課題と順を追って考える大切さを、身をもって体感した。
- ・「ごちゃ混ぜ」を意識して、もっと広い視点で周りのヒト・モノ・カネ・手段を見返してみたい。
- ・サロンや通いの場は画一的なサービス、個人の多様性に合わせた対応は個別マッチングで行うということが勉強になった。
- ・住民だからこそ知っている地域に必要な資源を、住民自身に主体的に発掘してもらうために、根気強く支援することが大切。
- ・移動支援に発展する過程は様々、一つのパターンだけでないことを知った。現在の居場所活動から自然発生的に移動の支援につながる可能性もあると感じた。
- ・ロジックモデルを活用し、事業を進めている最中でも目指すべき姿をチームで共有することが重要であることを学ぶことができ、大変参考になった。
- ・他市町村の取組をお聞きし、型にはまらず地域の実情に合わせて支援することが必要だと改めて感じた。
- ・チームメンタリングを臨機応変に長くしていただき良かった。
- ・生配信に参加できなくても、時間を調整して後日聴講。重要な箇所を繰り返し聞けて良かった。
- ・報告会を、行政も一緒に聞けて、本当に良かった。

※この事業は県の委託を受け実施しました。

